

## 【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の世界遺産
3	資料名	首里城跡
4	内容分類	施設・建造物
5	索引語	首里城, 首里城跡, 世界遺産, 琉球王国, 首里城公園
6	説明	<p>首里城は 1429 年に成立した琉球王国の政治、外交、文化の中心で、1879 年に最後の国王尚泰が明治政府に明け渡すまで栄えた。</p> <p>首里城は国王とその家族が居住する「王宮」と同時に、王国統治の行政機関「首里王府」の本部でもあった。また、各地に配置された神女たちを通じて、首里王府が運営する祭祀のネットワークの拠点でもあった。さらに、首里城とその周辺では芸能・音楽が盛んに演じられ、美術・工芸の専門家が数多く活躍していた。首里城は文化芸術の中心でもあった。</p> <p>諸説あるが築城は 14 世紀半ばから後半とみられ、丘陵の地形を巧みに利用して造られている。首里城は内郭（内側城郭）と外郭（外側城郭）に大きく分けられ、内郭は 15 世紀初期に、外郭は 16 世紀中期に完成している。東西約 400 メートル、南北 270 メートル、総面積約 4 万 6 千平方メートル。那覇港を見下ろし、海外貿易に駆け巡った東シナ海を望んで、西向きに建てられている。</p> <p>1879 年、首里城から国王が追放され「沖縄県」となった後、首里城は日本軍の駐屯地になったり、各種の学校等として使われた。現在でも首里城の地下には、第 2 次世界大戦中、アメリカ軍による沖縄侵攻に備えるために作られた壕群（第 32 軍司令部壕；5 本のトンネルが 1 本の中心トンネルから枝分かれする構造）が遺構として残っている。</p> <p>その後、1925 年、首里城正殿が国宝に指定され、1930 年代には大規模な修理が行われたが、1945 年にアメリカ軍の攻撃により全焼した。</p> <p>戦後、県が「守礼門」や「観会門」を再建。正殿は琉球独特の宮殿建築で 1992 年、沖縄の日本復帰 20 周年を記念して国営公園として復元された。宮殿前の広場は国王の重要な儀式が行われた場所である。2000 年 12 月、首里城跡が世界遺産に登録された。</p> <p>その後も復元工事が続き、2019 年 2 月、御内原エリアなどの復元を終えて一般公開されたが、同年 10 月 31 日午前 2 時 35 分ごろ、那覇市首里当蔵町の首里城正殿から出火し、隣接する北殿と南殿、書院・鎖之間、黄金御殿、二階御殿、奉神門の 7 棟にも延焼し、正殿は全焼した。2022 年 12</p>

		月現在も懸命な復興作業が進められている。
7	形式	静止画 (jpg)
8	氏名	撮影者：*****
9	時代・年	
10	地域・場所	〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) で提供
12	関連資料 1	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2022/12/03
16	登録者	大城愛恵
17	ファクトデータ	<p>circd050a-0017. jpg</p> 
18	*特色	<p>首里城正殿は沖縄最大の木造建築物ということだけではなく、日本と中国の建築様式を見事に取り入れた当時の琉球の人々の知恵と、チャンプルー文化といわれる沖縄文化の独自性をよく表わしている。</p> <p>首里城には「首里城正殿の鐘」（別名「万国津梁の鐘」）が設置されている。広福門前の広場の片隅に供屋という建物があり、現在は供屋に万国津梁の鐘（複製）が展示されている。</p> <p>万国津梁とは「世界の架け橋」をあらわし、14世紀、中国や東南アジアとの交易を通して「人と文化の架け橋」を目指してきた琉球の先人から受け継いだ志が込められている。2000年開催の沖縄サミットの会議場になった万国津梁館はこの鐘から名前をとっている。</p> <p>1923年3月には首里城正殿の取り壊しを食い止めた問題（首里城保存問題）があった。管理維持の財源を捻出できない首里市（旧自治体名）は1923年に「正殿の解体」を決定したが、伊東忠太（1867-1954、明治期～昭和期の建築家および建築史家）、鎌倉芳太郎（1898-1983、日本の染織家、沖縄文化研究家）らが文部省（現在の文部科学省）に保存を強く訴え、解体を免れた。</p> <p>1925年、国は首里城正殿を「沖縄神社」として古社寺保存法に拠る国宝に指定し、1928年にはその解体修理計画が国会で承認された。</p>

19	* 活用支援	
20	* 利用分野	教育, 生涯学習, 地域学習, 観光
21	* 改善結果	
22	* 処理プロセス	
23	* 関連資料2	